



122  
3393  
3



<2000-1994 (2)>



漂巽紀畧卷之三

川田維鶴 撰



萬次郎與傳藏等四人別環航于米利幹及諸  
洋之畧

天保十二年辛丑歲十一月万次郎ハ「オアホ」ニ  
テ筆之丞等四人別航「ウリュン」エ「チフィツ」ニ  
此ニ随ハ船ヲ上リ程ヲ畧シテ「マ」ト命セラレ  
或ハ「チン」ト以テ呼スル「チヨ」ニ蓋シ彼土  
倉語ニ「ウ」ヨリ船衆ヲ加スル十二月上旬「オア  
ホ」ト開帆シ南ニ向ヒ三十日許走リ「キン」ニ



一島ありる島幅負或ハ十里或ハ一里其數と  
しそ二十有余其赤道直下位すれを以て火氣  
炎熱之が為に土人裸体に常とし椰葉を編み  
まを蓑毛の如く垂れ僅に陰知を覆ふのみ其  
髪ハ肩より切り又項より束ねるもめり各々  
の難容我意に任せり全島大跡砂地り水は穀物  
のとりり生産も次椰子を拾ひ魚蝦を伐ち毎  
のれと平食とす家屋太ら粗りして唯椰木の四  
柱に立上り椰子葉を葢ひ下り椰子葉を茵以て  
此より寢起り我船此頭より魚を捕へ鍼を直西の

取走りりと數十余日

十三年壬寅歲三月「キューア」に至り薪水及羊子  
のりりと得四月下旬纜を解に鍼を成亥に取  
臺灣海を過り日本海を轉し「パレケ」に云へる  
舊年五人同く相苦し無人島にありし小魚を釣  
日本地と距るらと百里或ハ五十里外の洋あり  
鯨を捕へ東に走り八月「オホ」に近きけり  
節風波暴悪しして港頭を臨むから次便り鍼  
と未申に轉し十一月「エ」島に至る「エ」島ハ  
周西三十里島上人戸三百有余簷を連ね人物風



俗頗るオアホト小比所便ち薪水と買ひ十二月  
馱と懸者鐵と辰己おとれり

十四年癸卯歲四月下旬「シヨ」ウスメリ迄極南岬  
引「フホ」と云知「リ」百里外を徑歴了此処氷  
海ありて数多の氷山巍々として聳立す其最高  
大り留もの數百丈許を過き勢以殆と傾覆せん  
と凡船舶の通行すべし心或ハ為り破らるし  
と多しと云一の奇獸の大き抵牛に似て一  
倍すべしと云の所り其名を「ボ」トと稱し「シ  
ヒ」トといふもの共々見を擣へ多く氷山の

際と往還す背色濃紺鼻尖り一角を生す此とす  
き鐵と丑寅と取し是時方り天西ふ「カメツ」  
といへる異星あり一線天半を横るものと見了  
この星八十年百年回ら顯出るといふ又鐵と直  
灰を取六月上旬「ノ」北ヲスメリケエ合衆十シテ州  
「マ」シツ也國の藩内「ス」ベツホ山の港口に達す  
ズ「ベツ」ホ山ハ深さ三里有り本邦の十五丁と  
里との澳江ありて港喉太く夾き短一里有とれ  
中央の一岬あり岬を左右各板橋を架次右方の  
橋中間の板長さ五十尺鉄繩を以て之に繫ぎ隻



方へ車と作り在けるが船長橋と立りから橋辺  
 へ近づくと頃船衆一名橋より上り彼車にて鎖繩と  
 卷寄りハ中間の板片側へ退り船既と透徹と  
 待ち鎖繩と解寛をハ中間の板片へ進み  
 橋態元めととしられと過きヌーベツホし着  
 岸し船と船戸の前を撃き守者と置き「ツイツを」  
 此ハ船戸へ返帆と告げ船衆等も別れ万二郎と  
 攀り彼橋と南へ返り閨里「ア」へ「ブ」に至り  
 ちる「ア」へ「ブ」ハ街巷を比べヌーベツホ  
 しハ亜次打ち所と次街の中間「ツイツを」ルの家宅

シヒル

大サ大程ナルモノモ稀  
 アルト虫ドモ多クハ猫程  
 ノモノ殊ニ夥シ





ホース



けり既に飯に至りける門戸を固く鎖し寂莫  
として荒蕪を躰りてハイツペル此大に訝り  
隣家と叩き縁由と問われハイツペルは航海中  
室女死亡他は家人をさしおし如此鎖しられと  
のふとをきし「イツペル」も驚顛し万次郎と匠人  
「キムシアレン」に連れ者へ携へ行き終は是に寄宿せ  
しむ説起此「ナイツシテ」上州ハ東西六千九  
百余里<sup>メ</sup>法<sup>ケ</sup> 南北四千有一百余里ありて「シテ  
イツシマシツセル」ヌーヨーカ「ペンシライ  
ベ子」ヌーハンムシア「ロウアイラン」マ「ンテツカ、



シメケラハヨインリアナメンテシノオスカロ  
テエンシヨウスカロラエンレレウア「メセベイルノ  
ラエ」ロエシア「イナ」メシセキャエン「コランベア」ノセ  
ロテ「アレバマ」メ「シエウ」バチ子千「子」エ「ズラン」乃「子」  
テ子「シ」等三十余国ハ外北「つ」北極出地四十度  
五十度ハ位「と」以て大氣清潔寒暖時「と」稱以穀  
物蕃殖セ「る」も「り」一「土」人体格完美膚白髮黒  
身丈五六尺以上天稟溫柔好「く」人「の」愛憐と加「へ」  
且義節「あり」と尊け毎「く」百事ハ困勉「し」四方貿易  
セ「る」の地「り」婦女ハ「い」し「く」美艶「あり」て髮ハ黒

と頂「あり」て束ね髪「て」竿花ハ美と粧「ふ」と見凡其  
性質ハ柔順「あり」て能貞烈「と」守「る」可慶ハ風「と」り  
北「り」黒膚赤髮「あり」して女性「精」ふ「と」り「人」り「し」百  
品「り」し「と」虽蓋「ら」此「ら」ハ他州「の」人種「の」混交  
セ「し」り「飲食」衣服家居器械「の」族悉「く」ホ「ア」ホ「し」  
異「り」ら「ん」とい「へ」とも其豊饒彼「と」以て比倫「す」べ「か  
ら」凡酒「を」賤「し」む麦「の」オ「ア」ホ「し」ハ因「し」むとも墮慢  
あり「て」飲溺「する」も「り」ハ人殊「あり」此「と」避「け」敢「て  
近「く」者「り」一「既」而「万」以「郎」ハ「右」ム「シ」ア「レ」ビ「の」家「の」  
養育「せ」ら「る」も「り」ハ「已」ニ數日「よ」及「し」が「右」ム「シ」ア  
レ「ビ」の女「右」ム「シ」ア「レ」ビ「と」り「つ」お「り」年廿余「ハ



して防閑の塾師を以てけしハ童見数輩此門を遊  
學せり「註」ナアレシニ万は郎の對し子も六字を學  
ふとりハ授ちるハと云より乃ち手帖を買來  
り他更りく之と信守しハ是ハ先ニ「註」ニツニル  
ルハコアヘブシより二百五十里外も「又ニヨリ内  
國「スニヨリ内」と云へる都府有三十余国中の一  
の政起しして衆人才學兼備の人を推して政官  
たりしハ在職するハと四年を以て限るといふ  
とも若し高德化治後群たる人りハ猶職を退  
くハハ在職中一日の私人銀錢千二百枚邦錢二貫五百  
文を以て一枚

温島玉耳古

次とす四方の才士此撰ハ羅んと欲するもの相争  
て府下ハ未會ハ當今の政官を「テ」へ「ト」に移す刑  
罰截断法則と失むんと云此ハ如くして治法風  
化せらる者為る天下五十ハ「シ」テ「ハ」の政事ヲ加  
ハる者リハと云へり「註」ニツニルハ家兄「註」ハ千ハ  
ツニルハ此府内も栖寓すれば之ハも拜謁し并  
て商價するハと云へりとして出行八月頃ハ到り「註」ハリ  
イハと云へり「註」ハ後妻「註」ハアルハバハタイハ子ハと呼ぶものを  
携へ歸り五里外の東村「註」ハカハヌキ子ハムハとて金千  
枚ハ直と以て田莊を買新ハ家室を築き妻及万



次郎と伴以終ニ爰ニ遷居シ牛馬豚雞許多ト畜  
以耕夫と傭以黍麥豆芋蘿蔔瓜蔬等諸物と種万  
以郎も耕夫メ勞ヲ助け間暇と得ルハ字字と  
心カ為送交せシット十月十一月メ際ヨリ寔ニ純ク  
雪降り耘新自由ラルハ日カ字字と學ハ弘  
化元年甲辰歲二月頃「ソイツテ」ル萬次郎と呼謂  
ハけるハ「ソイツテ」ヘ「ブ」ルメ人「バ」ツレと云る夫  
子ハ年三十有余リるガ人皆博學多才と以て稱  
せり就て以て讀書及算術測量と學ムハシとして  
即行て學ハちキ此年「ソイツテ」ル男子と生ルハシ「ウリ

エンヘナシと名ク其額メ美麗玉と磨クハシと  
「ソイツテ」ルメ家姉ハ嘗て某氏ノ婦ナリシ其夫私  
ニ人カ女ヲ奪ハ出奔シける故今ハ「ソイツテ」ル  
ノ家ヲ來り會セトシ生兒ト介抱シ愛情大ニ加  
「ソイツテ」ルカ後ニ「ソイツテ」ルハ航海中此兒死スハシ  
みレ人憐ミハシり  
二年乙巳歲五月頃ヌレベツホシトシハシト  
ハハシ桶ヲ通シ寄宿シ桶法ヲ學ハハシトシ計ラレ  
病發テ「ソイツテ」ルハ飯ヲ療養ヲ加ヘ氣ヲ又シ此  
頃「ソイツテ」ルハ鯨ヲ漁シ行人トて旅裝ヲ設ケ守



の隻万端と托し置六月下旬至港口と聞帆セ  
三年丙午歲二月比より疾以愈へ又ハ比に到り  
寄宿一八月より「ソツ」に家り飯り居たり  
ち都より「ス」ヨ「ウ」カ人「アレ」テベシハ往歲「音  
ニ在」ムシハ「ラ」ラン 無人島にて助命  
の捕衆為  
し今茲「ス」ベツホ「シ」船の頭と名り捕鮮を行  
んとて即其船衆を雇ふ十月上旬と以て卒り  
其船より上水り其長二十八間ふして名を「フラン  
キラン」と稱し船中二十八名以て未數日「ス」ベ

ホ「シ」を啓帆し隣港「ボ」シト比カ入「ボ」シト比  
八人戸止慮十万許にして近国第一の好馬頭と  
稱す渴泊の船帆樞蠹として林のくくし中  
就て巨大の軍艦敷し之より下錨初「エ」ナシテ  
是ハ<sup>是可</sup>キシ己の間地「キ」シトシと云つれ<sup>合衆</sup>兩州  
是ハ<sup>是可</sup>論はる夏多年らりしが遂に兵と交戦  
闘已り三年即今に至り兩州更に軍器を増益大  
り相挑戦へり此軍艦の如きも又其備りありと云  
「エ」ナイツシテ己元千八百四十七年 我新化四  
年丁未に當ぬの歲年即明「エ」ナツシテ「キ」シ  
克終ハ「テ」キシ 港外の海岸數基の炮臺を見る屋  
上ハ<sup>是可</sup>傾得る



大の巨石と築成或四層或五層毎層大砲と倒置  
し恰城壘の如く嚴然たる備と設け居ねばと三  
日ふして帆と弭に走行八百里「ウエシタ」諸島の  
中「スー」ヨシ島に至れ「スー」ヨシハ周匝三十里氣  
候平常故穀物蕃生せず。もめ少く土人面容  
正ナクシテ企の比ふして衣服此製等亦之を摸  
倣せり之を過き「ケ」ババ「タ」諸島の中「セ」に  
ゴレも至る土人膚色淡黒頭髮卷縮し此にて豚  
及薪と買銀と午に取し赤道下より辰巳より  
「アフリ」ケの南岬「ケ」ゴリホッブと徑東に向ひ

銀と子を取「ア」シ「タ」ニと云る無人島なり此  
外より亀と突獲銀と丑寅の間ふと此  
四年丁未歳二月「タイ」モ山国「コ」ベ「ン」の奥より  
港上人衆二百有許其製作清国の工夫来り作係  
と以て彼国の風を倣ふと云人物膚黒髮縮長皆  
倭小なり其風俗の如きハ「タ」の管処の係る  
故大よ「タ」人よ比類せり三十日許滞泊し薪水  
を取得赤道下と東に往還し「ヌー」アイラニ至  
りられよ泊り此国往古ハ夫風人の来去を待  
り殺て之を啖ふ悪風なりと云る故もや面



目穉悪膚色栗黒首髮拳縮男女悉く全身り文也  
うももりなり此と去「シヨル」マシの外と環り鯨と  
捕得鍼と子り位より三月「モ」ア「シ」至る滞  
淹三十日ありて之と離れ直北に向ひ四月「ボ」  
ニ「シ」島り到る此島近來まで無人島り色「シ」今  
僅り之あり居住し羊り類と耕作すと云濁泊十日  
ありして水と取り之と出帆せり此知りて四年前  
の「シ」とり「シ」日本り漂船所り其船人等悉く死  
亡し唯一名余見「シ」ト「シ」バニ「シ」の船り助命され  
終り此と止り「シ」其人其驅使するの苦「シ」記を厭ひ

獨り小船と盜乘其終知と知るとのり「シ」と「シ」鍼  
と直西り取琉球諸島の中「シ」マンピゴ「シ」止り至り  
枝船と下り上陸し牛二足と買得攜り知り綿布  
二匹と与へ「シ」襖と離れ丑寅と走る日本海り到  
る「シ」ハレケ「シ」島の磯外りて小鱼と釣り八月頃此  
「シ」丑寅り「シ」二百有余里の海央りて小船二十  
數漁と取り水「シ」即船と止免帆と巻釣と垂れ松  
魚凡二百余尾と得り是時「シ」ありたり彼漁船二  
艘本船近「シ」操来り「シ」萬二郎「シ」攜へたる和製の  
服「シ」ン「シ」を着し手帕と以て縛額し船首より立て



聲と上り彼船と呼止る此地何の国なりやと問  
多し陸奥州仙臺なりと云とよし急ぎ枝船と仰  
し蒸餅二桶を擣へられと贈り猶土佐州ハ是よ  
り何れ方位に當りしと問々る小土佐ハ未だ  
知り得るなりしと他ニ数語ありしと云一も  
通し得たりしり松魚数尾を見せしれを惠ん  
と云故松魚ハ過刻多く釣たりし形語に取れハ  
彼漁人等頓首一切蒸餅の恩を謝し帰りたる  
此と去り東に白ひ十月オアホ一國ツハツホ  
しに到帆を隅日本人一名嘗て之に來り栖むと云と

聞便ち行て訪りれハ寅右衛門也しし共々  
恙と相説ひ互ニ行状と演説緒端々相語り等  
之並ハ移を傳藏と革つ此地に居住せしり重助  
ハ去歲正月死去し兄弟これと哀みしり其十月  
フイツをルりて話して附船して五右衛門と擣へ  
歸朝せしりとも約畧と語り共々人世の期已  
きと歎息し別を告て船小帰せハ會一漁船り入  
港りりけり其船に日本人二人附乗するとも  
く急ぎ小水と尋ねしハ即傳藏五右衛門つりり  
りハ相見て驚快し無異なりつ既了り何



の故よ又来りたりやと問へば二人泪を拂ひ日  
本海に至りしより八丈野作の事実を尽して演  
説し只袂としりる外事ばかりの滞泊する  
莫二十日許にして傳藏等と別を決し再會を期  
しつ、十一月上旬「オアホ」と鮮纜し鍼を直南  
よりしり島外より鯨を捕鍼と成たよ取又直西  
より向以走行次

嘉永元年戊申歳二月「ギニア」に繋纜せり此時船  
頭「アレ」にて狂気となり其暴大たりにたり  
鏈條をとりしを撃つ「ル」呂宋「シヨ」に国「ム子」にハ入りて小

管處を設けりよ之を托し本国へ送りかへば  
しとし四月下旬「キュー」に啓帆せり「ウ」慮津外  
諸州の遍し四方の航海し市を互にすらしを  
専門とすれハ萬一失風及び「コ」而今「タ」如き累は  
と化ハ事用と弁別せんり為し諸州港澳は  
地ハ小官聴を設置せり嘗て「又」ヨ一船我江戸  
へ航来し語次一吏を置せしめんを請はれ  
とも通軍し得ず、為し片船一隻先飯し  
我より本国への報船して他日教鑑を帥以嗣来  
なりしと心るけりや 大府へも上聞し防禦



の備と設るりと語ると軍々其後「オアホ」にて  
フレシと云書く此度と記載たるを見たり邦情  
と穿ると尤詳密なりとほりし「シ」海より及り  
北ハ風起浪立其勢船を沙頭へ揚投せんとす衆  
咸艱苦して漸く「ム子」港候へ望み「ム子」ハ  
近国ハ華地ふりて人戸鱗例造築悉く佳く既に  
船頭を托し「ムシ」テ「エ」船頭より代り船上首  
領より七月上旬「ム子」港を出帆し此頭ハ海より鯨を  
捕り壹湾あり地球海を經日本より臨み鯨を捕  
へ南より向ひ十月「モ」ア「シ」に到泊繫三十日計りて

十一月懸帆鐵南位より取り赤道下り臨み「ス」ア  
イラン海あり鯨を捕り新區為母「ギ」子「エ」より西より向ひり  
二年己酉歲二月「シ」セ「マ」ニ國より撃く「シ」セ「マ」ニハ  
和聲「カ」管知りし「シ」三十日許在る「鸚鵡」多し  
とゆつてこれと家より齎せんとて賒得てこれと  
船上より撃り「タイ」モ「シ」に到り雞數羽を買即日出  
帆し鐵を直西より取り「テ」ヨ「シ」ホ「シ」ボ「シ」ハ傍五  
月比「マ」デ「ガ」ハ「シ」海を過「ケ」ブ「ゴ」リ「ホ」ツ「ブ」を踰  
鐵を乾し取り「シ」セントヘリ「シ」ハ側と乘鐵を成矢  
より取六月「ラ」ラ「ス」メ「リ」ケ「ハ」東洋に臨み八月中旬



ヌーバツホーの歸港セリ往歲ヌーバツホーと  
出帆セシヨリ今に至れまで消光四ヶ月ありて  
鯨五百頭油数千樽を得たり萬次郎も金三百五  
十枚の配分錢と受上陸し「ソイツを」此の家ニ歸リ  
至きハ「ソイツを」此も在宅し今茲の捕漁の畧事  
と語りけしバ「ソイツを」此も勉強の功勞を褒美セ  
リ爰ハ「ユエ」シテ企州ニ「ラヤ」州と云り其  
地大金礦あり此ハ「セン」グリマク止の管内ありて近  
載の掘堀りりたるハ諸州の此も至りもり漫々  
採掘るとと許しと聞以為ハ彼ニ行て掘夫たらん

此ハ必ず度外の賊と得以後身体自在たるハ  
と「ソイツを」此も此事と語り持辞と乞舊知の「テ  
」と云者と偕以附船と得十月「ス」ヘー「ブ」ム  
て船の上れ船長と三十間其名「シ」テ「ギ」リ「シ」  
移すまで出港して辰巳ヨリ未申ニ轉し「ケ」  
「ブ」ホ「ン」を踰入<sup>直</sup>庚北ニ走り  
三年庚戌歲四月「シ」ヨ「ウ」ス「ム」リ「シ」  
レ「シ」旨と云知ハ達<sup>米利幹</sup>于此地金銀銅鑛と出番直  
之しわら次土人ハ体格完正りり港上人戸柳比  
高旅頗る雲集す八日滞船し「ル」と出で錢を亥



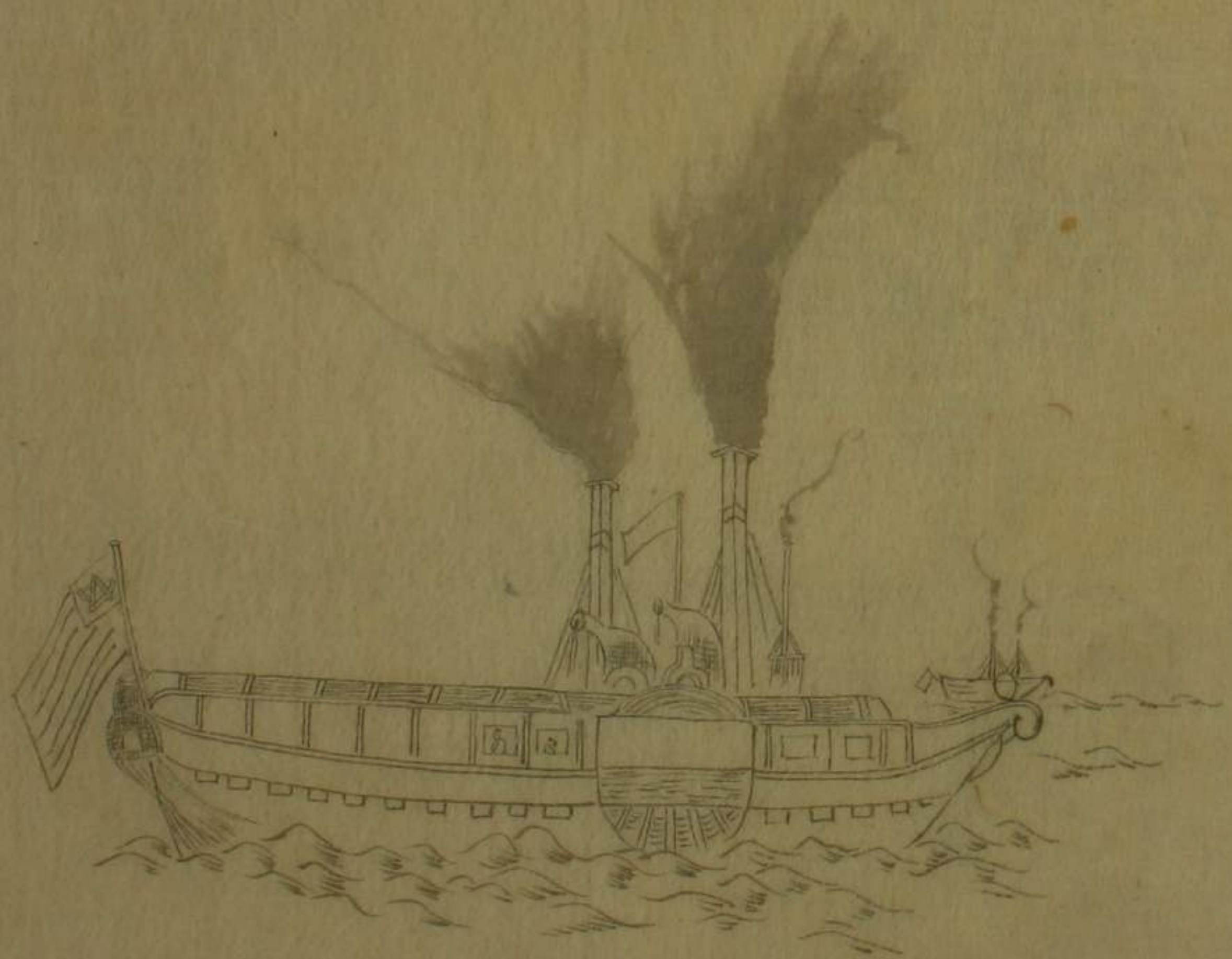
位より成疾よりリノオスメリケリ西洋に及以五月下旬「キャレ」子に到帆于此地裏海に臨む大湾集ありて賈船商舶皆休泊の要地とす府城皋上、在り街巷頗繁昌ふして三千余烟の列店爰に稠密たり上陸し宿を投し滯留三日ありて此より「シ」チンボールと云異船に附乗す「シ」チンボールは長四十余間ふして帆帆を用申事なく唯中央に巨大の湯罐と設船の内外に附る所の鍊車其沸盪の氣と得て轉輪に疾走り甚に記支猶譬ありりゆり即夜江水と溯りふし百十余里あり

て「セ」ングリメに到船し上陸して「レ」イローと云る異車の多く此辺に往來すと見ふ「ユ」ナ州よりハ殊に多くして萬次郎「イ」ロハ三間一度乗るゝとありとやハ四面に鍊函の炭火と罩み其烈氣と並に函内は盈満りりりめ之と僅に鍊筒なりし製作皆「シ」チンボールに如くありて鍊車の轉輪猶「シ」チンボールに異りりり別る鍊函二十三四箇續て相繋ぎ装齋と上背に載人其下に居る函の左右窓三口と穿つ悉く硝と張粘す此より外頭と望み見れば諸物皆横斜ありて久視するに能



こんどと云其疾行此の如く是天下の一奇物なり  
 り其徑過の地ハ都て山なりき知りて是行ハ便と  
 りん既よセングリマゴと誤行ハ或ハ馬或ハ輿險峻  
 輿馬通行セざるの如ハ歩行ハ難き所と辨察す  
 ちと五日ふしを高山大半雪と帯るもりあり名  
 て「エエン」すと云山中三大川あり曰「北ラス」曰「南」  
 朝ス曰「北ラス」と稱す其「北ラス」原價ハ類及ハ銀  
 座皆「北ラス」テイハ置知りりつてかり原價  
 小傭夫とりりり日ハ振器と攜ハ金礦ヲ至見了ハ  
 平生ハ巨窟ヲ穿チ毎ハ此ヲ採といハとも取方ハ

シンボル







レイロー





盛夏の候坑中の炎氣堪へ難く衆人皆河頭より臨  
 り掘れりと深四尺有余ありて金礦を得たり又  
 土砂中より交混する砂金あり之と河水より洗ふ其  
 法尤秘訣ありと云別々金と除く外銀銅鉛錫  
 の種類あり傍之と採者亦少く抑此地は金  
 と産する所と鏡多しといて年々盛なり月々昌  
 へり近日に至り新々青樓娼家を設け山美海鮮  
 市墟より此の如く繁華なりあり更なる  
 愚者は狹客と稱し黨と結ひ方便を以て人々賤  
 と奪ひ取り甚しなり人と銃殺するに至り暴横



けり正と制すくぬらふも至るも頗る多し  
既而僱人たむと三十日許りして僱謝銀百八十枚  
と得り水とつて自ぬら物器と買ひ彼家と辞し  
旅亭の舎し私に坑来る金と金座に直すも  
一日の銀二十枚二十五枚と得又空手りれ  
もりるりしと合算七十余日ありて銀六百枚と  
得たり八月上旬とつて金山と發程なり萬次郎  
以為やうハ金と得るりと此の如く莫大の  
と再三すべかられ此を以て早くオアホ止り行  
附船と得て飯朝せんらとめり記ありし獨語

つ、運と前路も取らせングリマン止りし  
乗「キヤレ」オアホ城外に至り「オアホ」  
便船と探索するも又「ヨ」カ「船」エライ「シヤ」と  
云ハ其大尋常の鯨魚船の一陪りなり「オアホ」  
の船なりと聞便附乗を乞此舉もて上船し鐵と  
未申も取走らふと十八日ありて「オアホ」  
港「<sup>コ</sup>ン」<sub>地</sub>「<sup>ネ</sup>」の家に入運價二十五枚と船中へ与  
つけふ



... 卷之六 ... 論易經 ... 易經之理 ... 天地之道 ... 陰陽之氣 ... 五行之運 ... 萬物之化 ... 聖人之德 ... 君子之修 ... 小人之過 ... 賢人之行 ... 不肖人之事 ... 此其大略也 ...



